



株式会社 城野印刷所 桑野 亮 さん

開けた扉の先にあるもの

ユースホステルに泊まった、同じく自転車で全国を行脚する旅人たち。共通の目的がある彼らとは話が合いました。今でも連絡をとっている人もいますよ。世界1周しているオーストラリアの人と同室になったこともありましたね。それまでは学校や近所のコミュニティだけで生きてきたという桑野さん。「自分と違う世界を生きてきた人たちと交流する。あの経験がなければ、営業職に就きたいと思わなかったでしょうね」。

“できるしこ”を続けていく

桑野さんがYMCAフィランソロピー協会の担当になったのは2008年。それまで、ボランティアに関わることはなかったと言います。「ボランティアって、崇高な志を持っている人が取り組むものだ、自分で勝手にハードルをあげていたんですよね。協会との関わりの中で、自分の“できるしこ(出来る範囲)”のことを、長く続けていくというのも一つのあり方なのだ学びました」。

活動の一環として、サンタの衣装に身を包み、熊本地震の仮設団地で暮らす子どもたちにクリスマスプレゼントを届けに行ったことも。「私が登場した瞬間に歓声があがって、こちらが元気をもらいました」と目を細めます。「フェアトレードについても、例えばチョコレートが100円で売ってあるとして、それが本当に適正な価格なのかを考えるようになりました。同じ商品なら安いほうがいいというのは誰もが思うこと。でも、もしかしたら、カカオ原産国の子どもたちが不当に労働させられることで成り立っている安さなのかもしれない。そんな視点を持つようになったことにも、協会に関わる意義を感じます」。

失敗は未来の自分への投資

前向きな桑野さんにとっても、熊本地震は衝撃的な出来事でした。益城町に本社を構える城野印刷所は社屋が全壊認定を受けます。「それでも、少しずつ動かせる機械を増やして、5月の早い段階で再稼働することができました」。自宅も益城町にある桑野さんは、被災後に多くの人の優しさにふれました。「地震で壊れたバイクの小さな部品をネットオークションで購入したところ、届いたのは大きな荷物でした。部品と一緒に、水と食料が入っていて…。送り先の住所を見てピンと来たんでしょうね。すごくうれしかった。今でも思い出すと涙が出てきます。自分もそういう思いやりを持った行動をしたいですね」。

現在、54歳。「定年を迎えたら、ツーリングで日本1周したいな」と話す桑野さん。今は後進の育成にも力を入れています。「今まで私が経験してきたことが、ちょっとでも参考になればよいですね。あるいは反面教師にしてもらえばいいかな」と笑います。次の世代の人たちに伝えたいことは、「もしも今、辛いことがあったとしても、自分の視野を広げていけば、扉が開くことがある」ということ。「今いる自分の世界が全てじゃない。だから、いろんなことを経験してほしいですね」。桑野さん自身、自転車の旅の経験が、今も糧になっているといいます。「無謀な挑戦でもいいんです。失敗することのほうが多いかもしれない。しかしそれは未来の自分への投資だと思えたらいいのかな。もちろん私自身も、まだまだチャレンジしていきますよ」。

世界は広いと知った無謀な旅

「よろこびあえる未来を」を合言葉に、熊本の企業と企業人のボランティア活動を支援しているYMCAフィランソロピー協会。その幹事企業の一つが創業105年の歴史を誇る株式会社城野印刷所です。担当として活動に参加するのは、同社に勤めて32年の桑野亮さん。営業職として200社以上を担当し、協会の行事でも活躍。休日にはツーリングで阿蘇をめぐるなどアクティブな桑野さんですが、子どもの頃の自分について「どこにでもいる内気な少年だった」と語ります。そんな桑野さんを変えたのは、中学生の頃にたまたま手にした1冊の漫画本でした。

主人公が自転車で日本を1周するというその漫画のストーリーに感化された桑野さんは、高校生になると、学校の長期休暇に行先も決めない気ままな自転車の旅に出るように。一度旅立つと2～3週間は帰りません。8月6日、思い立って広島に向かった桑野さんは衝撃を受けます。「平和記念式典や集会が行われ、いろいろな国の人たちが集まっていて、世界を見たような気持ちになりました」。旅の途中、桑野さんは多くの人たちと出会いました。「同じ日に同じ



広島を訪れた桑野さん

Pickup

みんなで大掃除
ぶどうの木幼稚園



英会話と世界のことはば
クリスマス
特別レッスン

寄席に挑戦!?
赤水保育園
クリスマス発表会



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

1月18日~24日

YMCA年末募金 チャリティプログラム

1 3 4
10 16 17

楽しむ
×
チャリティ

11月から実施しているYMCA年末募金の取組みの一環として、チャリティプログラムを開催します。

みなみセンター

回1月23日(日) 因<要申込>親子ヨガ・親子プール開放・カラダを動かすワンポイントアドバイス(開脚跳びコース・逆上がりコース)・わくわく科学じっけん教室・ボールを使ってカラダを動かす <申込不要>カヌー大冒険!・謎解き遊び・お楽しみコーナー・ミニのみの市 囲申込みはWebで



ながみねファミリーセンター

【チャリティウィーク】回1月18日(火)~24日(月) 因ゲーム・くじ引きなど 【チャリティプログラム】回1月23日(日) 因<要申込>体操教室・水泳教室 <申込不要>ゲーム・バザー・キッチンカーなど 囲お電話でお問い合わせください。Tel 096-353-6391(音声ガイダンス③)



むさしセンター

回1月23日(日) 因<要申込>水泳ワンポイントレッスン・プール開放・カラフルスワッグ作り・プラバン作り <申込不要>握力測定でボランティア・ミニバザー 囲申込みはWebで



1月29日 Saturday

3年間の学びの成果を発表 YMCA学院児童福祉教育科 卒業発表会

4

学び
×
仲間

YMCA学院で保育者を目指して学ぶ児童福祉教育科(現こども保育科)の学生たち。卒業を控えた3年生の学びの集大成、卒業発表会を開催します。入場無料。子どもから大人まで楽しめる演目です。

回1月29日(土) 13:00開場 13:30開演
場八千代座(山鹿市) 因創作劇・ダンス・合唱
囲YMCA学院 Tel 096-353-6393



昨年度の様子

1月29日~30日

熊本バンド146周年記念行事

11 16

キリスト教
×
祈祷

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じ、この教えを日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟146周年を記念して、講演会と早天祈祷会を開催します。

講師・奨励 越後屋朗さん(同志社大学神学部教授)

講演会

回1月29日(土) 18:30~20:00
場 熊本草葉町教会 因 熊本バンドと新神学

早天祈祷会

回1月30日(日) 6:30~7:30 場花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前 奨励 目を開く
※講演会・祈祷会共にライブ配信をいたします。感染状況により、現地での参加をお控えいただく場合があります。現地参加の可否は1月20日以降に熊本YMCAのWebサイトまたはお電話にてご確認ください。

回 熊本バンド146周年記念行事実行委員会
場 実行委員会事務局熊本YMCA Tel 096-353-6397

熊本バンド記念行事
Webページ▶



祈祷会を憶えて献金をお願いします。

クレジットカード決済も可能です。熊本バンド記念行事Webページからお申込みください。

北海道ダイナミック スキーキャンプ

北海道の広大なコース・滑走距離とともに充実のゲレンデで更なるレベルアップを目指そう!希望者はジュニアスキー検定にチャレンジすることもできます。

回4泊5日 3月26日(土)~3月30日(水)
因小学生~中学生 場ニセコビレッジスキーリゾート 囲12歳未満 160,000円/12歳以上 175,000円 因12歳未満 10名/12歳以上 10名 囲Tel 096-353-6391(音声ガイダンス③)



YMCAウエルネス パーソナルトレーニング

みなみセンターで大人の個別レッスンが始まりました。専門の有資格者が指導します。

場6,000円/1時間 20,000円/4時間
因16歳以上 囲Tel 096-353-6391

トレーニングジム

講師 黒木裕二郎さん

NSCAジャパンマスターコーチ
日本スポーツ協会ウエイトリフティングコーチ1

効果の見えるトレーニングをご指導します。
運動のお悩みはお任せください!



プール

講師 兼瀬稔宜さん

日本水泳連盟水泳指導員

初級から競技レベルまで、すべての泳力に対応して、レベルアップをお約束します。



集会用テント5張が寄贈されました

一般財団法人日本宝くじ協会より、集会用テント5張が寄贈されました。テントは熊本YMCAの5拠点に配布され、さっそくバザーや運動会で使用しました。今後もそれぞれの地域活動やイベント等で有効に活用します。ありがとうございます。



R | E | P | O | R | T

[11月1日⇒ 12月12日]

募金報告

街頭募金活動を実施 熊本YMCA年末募金

1 3 4 10 16 17

2021年11月1日から2022年1月31日まで実施する熊本YMCA年末募金は、目標1,000万円に対し、現在82.1%の達成(1月1日付)まで進んでいます。

11月27日(土)は阿蘇の5カ所で、12月5日(日)には県内を中心に8カ所で街頭募金活動を実施し、計414,546円が集まりました。

2021年5月にオープンしたYMCA本館の最寄り駅であるJR上熊本駅でも初めて行うなど、YMCAの活動を広く伝える機会となりました。街頭での呼びかけに参加した会員の皆さんや、足を止め寄付をして

いただいた皆さんの期待と大きな力を感じることができました。

募金活動開始以降、地域の団体・企業からの賛同や、子どもから大人まで多くの皆さんから励ましの言葉が届いています。1月には、みなみセンター、ながみねファミリーセンター、むさしセンターでチャリティープログラム等も開催します(2面に関連記事)。「ひとりがよくなると社会や世界はきっと変わる」を合言葉に、この活動を分かち合っていきたいと思います。

職員 木村成寿



クリスマス

キリストの生誕を祝う 岩永知樹チャリティーチェロコンサート

11 16

市民クリスマスは、熊本YMCAが事務局となり、県内のキリスト教関連機関やクリスチャンによる実行委員会を中心に開催されています。2年ぶりとなった今年は、様々な音楽シーンで活躍するチェリストの岩永知樹さんとピアニストの原田朋香さんを招いてチャリティーコンサートを企画。12月11日(土)、会場の日本基督教団熊本白川教会に159名が来場しました。

開演に先立ち、同教会牧師の富田信さんが「何でもできると自負していた私たちが、今、コロナによる

悲しみ、苦しみを経験しています。人間は小さなものです。キリストにゆだねることで、私たちは平安を築くことができます。ともにキリストの誕生を喜びましょう」とメッセージを送りました。

コンサートではクラシックやサウンド・オブ・ミュージックメドレーなどを演奏。チェロとピアノの美しいメロディーの合間には岩永さんによる軽妙な解説もあり、会場が笑顔に包まれました。アンコールも3曲披露され、「きよしこの夜」で幕を閉じました。

職員 岡山富士男



ユース

交流キャンプ! 熊本・福岡YMCA野外リーダー会

4 11 14 17

12月11日(土)～12日(日)、YMCA阿蘇キャンプに熊本と福岡のユースボランティアリーダーたちが集い、交流キャンプを実施しました。キャンプで子どもたちと一緒にいるレクリエーションや自然散策、野外調理などの活動をリーダーのみで体験。子どもたちの視点に立ちながら、学び合いました。2022年度は全国YMCAリーダー研修会の事務局を熊本と福岡が合同で運営するため、両YMCAの関係性の構築も目的に掲げていました。

リーダーたちは日ごろの活動状況やキャンプへの

思いを語り合い、同じ志を持つ仲間として絆を深めました。今後はオンラインミーティングなどを継続開催し、つながりを大切に互いに高め合っていくことを約束。帰りには別れを惜しんで涙を流すリーダーもいました。

キャンプは子どもやリーダーたち1人ひとりの良いところを引き出し、互いに磨き合って認め合う場所です。このキャンプを始まりとして、ユースエンパワメントのさらなる広がりを期待しています。

職員 藤本博人



COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.4

総主事 光永 尚生



YMCAと年末募金

熊本YMCAでは、11月から翌年の1月まで、17の施設の会員の皆様、地域の皆様に対して「YMCA年末募金」のお願いをしています。単なる恒例ではなく、毎年、様々な方が様々な形で関わられ、支えてくださっています。

まず、募金委員会が構成され、実行委員長が決められます。そして実行委員を中心に年末募

金の目的を確認してから始まります。年末募金の目的は、YMCA全体のビジョンである「ポジティブネットのある豊かな社会の実現」につながっていく、以下の4つの具体的な活動です。

- ①【子ども】子どもたちに学びと成長の場を
- ②【若者】平和を創る人材の育成を
- ③【国際】いのちが大切にされる世界を
- ④【災害支援】災害復興支援・防災対策への取り組みを

2021年度は、募金額の目標を1,000万円と定めて、2022年1月末まで取り組んでいます。

この中のBAPY(Be A Partner of the Youth)では、子どもたちの参加費減免制度が長く活用され、学生の皆さんには奨学金とは別に、修学支援制度などが用いられており、学びと成長の

機会が、YMCAの活動を通して提供されています。また並行して、国際平和に寄与できる活動、災害支援活動の継続的な働きなどへも拠出されていきます。年末募金は、地域の皆様の深い想いと、皆様の愛で毎年創り上げられていきます。YMCAの正章に示されたヨハネによる福音書17章21節にある“みんなのものが一つとなる”働きを覚えていただければ幸いです。

今回のYMCA NEWSは、1・2月合併号となっていますが、2月23日の「ピンクシャツデー」の活動を通して、いじめや差別に対して「NO」と言える働きも覚えて実行してまいりますので、引き続き皆様ご自身の“みつかる。つながる。よくなっていく。”働きへの参画をお願い申し上げます。



みんなでめざそう1,000km!

3 16 17

第6回 熊本YMCAインターナショナル・チャリティーラン

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されています。第6回となった熊本大会は、リアルとオンラインのハイブリッドにて開催。11月28日(日)に益城町総合運動公園で行われたオープニングランを皮切りに、12月5日(日)までの8日間、総合距離1,000kmをめざして参加者それぞれがラン、ウォーク、スイムなどにチャレンジし、距離のリポート申告を行いました。総積算距離は3,769.3kmと、目標を大きく上回る結果に。参加費等による益金は430,268円でした。



オープニングラン



いっせいにスタート!



東京パラリンピック柔道代表の平井孝明さんも参加



ブラインドランニングに挑戦



ポッチャ体験



車イス走行体験



おもしろいゴール!



オンライン参加



YMCA学院日本語科の留学生の皆さんがチャレンジの様子をFacebookで紹介してくれました。

YMCA学院
日本語科
Facebook



表彰

12月22日(水)、個人の部コスモアイル羽咋賞を獲得した登録名「かまちゃん」こと鎌田聡さん(写真右)を表彰しました。



大会結果はWebサイトで公開しています



私が初めて聖書に出会ったのが約40年前の27歳頃です。その頃の私は立て続けに起こる不慮の事故で身近な兄や叔父、同僚を失う不幸の中に苦しんでいました。死の問題は若い自分にとってずっと先の問題と捉えていたのですが、それは私の前に突如として立ち塞がったのです。そのことを機に、「自分とは何なのか?」「人生に目的があるのか、ないのか?」「あるとすればそれが何なのか?」「また、死の問題をどのように捉えたら良いのか」などなど。それまで真剣に考えなかった問題が自分の前に立ちちはだかったのです。これらの問題に誰も納得できる答えを持ち合わせていません。それどころか、このような問題に悩んでいる私を変人扱いします。この頃、自分でも日ごとに重い空気に沈みがちになり、命のない抜け殻のような状態に陥っていました。

こんなどん底の状態で一冊の聖書に出会うことになりました。この出会いは、私にとってこれ以上ないと思えるほどの絶妙なタイミングでした。その中に私が求めていた問題の答えが見事なまでに明確に記されていたのです。人間が始めから神の子として神ご自身に似せて創造されたこと。死んで終わりではなく永遠のいのちがあること。人生には明確な意味と目的があること。

そして何よりも驚いたのは主イエスが「わたしが創造主なる神なのだ」と宣言していることです。これが嘘であればイエスは歴史上最大のペテン師であり、真実であれば真の神となる。私は後者を選択したことを、今でも神に心から感謝しています。

わたしがそれです

「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

ヨハネによる福音書 4章26節

わたしと聖句



天草中央キリスト教会
南圭生

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2021年度基本聖句

コリントの信徒への手紙二 4章18節

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。